

効果的な少人数指導の在り方

佐賀市立若楠小学校 教諭 森永 理一郎 太良町立多良小学校 教諭 榮岩 和浩
小城市立芦刈中学校 教諭 木下 久代 伊万里市立伊万里中学校 教諭 川原 靖治

1 グループ研究の趣旨

様々な情報が複雑に絡み合う現代社会において、自ら学び、判断し、行動できるための力をはぐくむことが求められている。平成14年度から実施された教育課程に対して、学習内容の精選や授業時間数の削減等から、児童生徒の学力低下が問題視されている。児童生徒の学力の向上を目指して少人数指導などが始められているが、単に機械的に1クラスを2つに分けるなどの指導を行っていた学校も多く、基礎的な学力の向上についての効果は余り上がっていないようである。基礎学力を向上させるための効果的な少人数指導の在り方については、現在も多くの教師が悩んでいるところである。

平成16年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果においては、算数科の小学校5年生では「台形の面積の求め方を説明する問題」、6年生では「分数の除法計算の意味理解」の通過率が最も低くなっていた。これは、根拠を明らかにしながら筋道を立てて考えていく力や、数式や図、言葉等で自分の考えを表すことができる算数的な表現力が十分に身に付いていないためと考えられる。数学科でも同様な傾向が見られ、事象の正誤や関係を判断し、その理由を記述する問題における通過率が低く、無解答が多かった。また、英語科では、与えられたテーマや条件に合う英文を書くなどの「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」についての通過率が低く、無解答が多かった。これは、内容・領域別の「書くこと」についての無解答率の高さとも一致していた。以上のような問題点を解決し、学力の向上を目指すため、少人数指導の工夫・改善が必要であると考えた。

そこで、本グループでは、算数科、数学科、英語科に共通した課題である表現力を身に付けさせるために、教科の特性や学習内容、発達段階などに合った効果的な少人数指導の在り方を探っていくこととした。

2 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

児童・生徒の個別化、個性化に対応するために、学年あるいは学級を少人数のクラスに分けた後、話し合い活動の中で更に小グループに細分化した。これによって、話しやすい雰囲気を作ると同時に、発表の機会を増やし、意見交換を活発にすることを目指した。これらの活動を通して身に付けた表現力の高まりを検証し、効果的な少人数指導の在り方を探った。

(2) 研究の方法

表現力を高めるために、次のような少人数指導に取り組んだ。

小学校算数科では、すべての児童に、自分で考え表現できる力を身に付けさせるため、高学年では習熟度別による少人数指導、低学年では等質クラスによる少人数指導を行った。

中学校英語科では、英語で表現するために必要な基礎学力の完全習得を、暗唱・暗写によって目指す少人数指導を行った。

中学校数学科では、図形領域において、数学的な表現力を伸ばすために個に応じたきめ細かな少人数指導を行った。